

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2014
vol.24



自分の人生を豊かにする

卒業生 王 慧華(台湾)

私はこの文書を書く際に、まだ社会人になっていない後輩に何を書けば自分の気持ち及びメッセージを伝えることができるのかを考えた。そして、自分が和歌山大学を卒業し、社会人になってから今まで、どのような人生を歩んできたかを書くことにした。私は毎日が無駄にせず、充実した生活を一生懸命に送っている。それが私の一番伝えたいメッセージだ。

大学に入ってから、勉強しアルバイトする一方、私は常に将来のため何を準備すべきかを考え、目標を設定し、それに向かって努力していた。卒業後、わが国台湾に帰って、日本で学んだ日本語を生かすために、台湾における日本の有名な電子メーカーで営業として働いた。この会社に入って、私は台湾の電子産業についての知識を習得したが、そのうちに、仕事の内容が自分の競争力を失わせるのではないかと思います、考えた挙句その仕事を辞めることにした。そして、次の職場で働くためには何を強化すべきかを考え、カナダに飛んだ。カナダにいる半年間、英語を強化しながら、視野を広げるために旅に出た。台湾に帰って、自分が働きたい半導体業界か液晶業界で働くために、半年間失業者になってもその業界の仕事を探し続けた。無職の間にも、自分の能力を強化するため、アルバイトをしながら勉強し続けた。半年過ぎて、日本の商社に就職することができた。担当することとなった分野は半導体産業であった。台湾の半導体産業は台湾の経済命脈である。

工場は休まず 24 時間動いている。日本製品を台湾の半導体メーカーに販売するため、顧客の都合で 24 時間対応せざるを得なかった。このような生活は 10 年間続いた。この 10 年間、仕事や接している人を通じて、色々考えさせられた。もっと大学で勉強すればよかったと思うこともあったが、過ぎたことを振り返っても仕方がない。今から新たな知識を増やすためには、色々な本を読んだり、旅行などで様々な体験をし心でこの世界を感じたり、そこからまた新たな自分が生まれるのではないかと考えてきた。台湾半導体メーカー向けの商売を 10 年間ずっと担当してきた私は、一昨年その担当を離れ、研修生として親会社での 2 年間研修を受けるため来日した。研修期間中、一つの部署に留まらず色々な部門で研修を受けている。研修内容はすべて新しい分野なので、わからないことが多いが、研修を通じて商品知識等を積み重ねていくことは刺激的だ。日本での研修は、仕事だけではなく、仕事以外の体験及び学習も重要と思い、積極的に外に出て色々なものを見、様々な人と触れ合うようにしている。そうすることで、生きてよかったな！と思う気持ちが心から湧いてくる。

社会人になってから、我々を取り巻く経済環境は厳しい。将来更に厳しくなるのではと感じている。しかし、私は自分の母国の人と競争するのではなく、世界と競争するのだと自分に言い聞かせている。だから、私は人生を無駄にせず、生きる限り色々な知識を習得し、自分の目で世界を見、心で世界を感じたい。精一杯生きていきたい。自分の人生を豊かにすることは自分にしかできないと信じている。



中国が日本から輸入した和製漢語

朱 曉平（中国）

中国人の親友に聞いてみても、和製漢語はあまりにも違和感がない言葉であるために、中国人は日本語からの外来語であることに気が付いていない。これらの言葉は中国人にとってみれば外来語のはずなのであるが、日本語からの外来語であることをほとんどの中国人が知らないのである。

ご存知のとおり、日本の漢字は中国から伝えられたものだ。他の国の日本語学習者と違い、中国人の日本語学習者は日本語を勉強してから「外来語」としての日本語は現代中国語の中で存在していると分かる。

統計によれば、私たちが現在使用している社会・人文・科学方面の名詞・用語において、実に驚く程の割合、70%が日本から輸入したものである。

例として、革命、国家、宗教、医学、法律、哲学、歴史、民族、教育、美術、化学、科学などである。もし和製漢語を離れてしまえば、私たちは今日ほとんど話をすることができない。大量に和製漢語を使わなければ、私のこの文章も成立できないだろう。

また、中国人の私もびっくりするのだが、実は、中国の正式な国名「中華人民共和国」の中の、「人民」と「共和国」も和製漢語である。それに、中国の政党「共産党」も和製漢語である。さらに、中国の革命の歴史に大切なもの「共産党宣言」も日本語から翻訳された。大袈裟だが、もし和製漢語がなければ、中国の正式な国名、中国の近代史はどうなるかと想像できないと思えるほどである。中国人にとってこのような和製漢語は意味が深く大切な存在である。

一方、近年では、日本のアニメやドラマやゲームなどが中国の若者の間に流行っている。そのため、たくさんのネット用語としての日本語が若者のサークルから一般人に伝えられている。これらの新しい外来語は、いつの間にか、新聞、テレビ番組などのメディアに使われるようになった。

そのうちの、最も使われている和製漢語をいくつか紹介する。それらは、「萌」、「宅男」、「宅女」、「草食男」、「肉食男」、「人気」、「達人」である。

特に、「萌」という漢字が、近年一番年齢層を問わず幅広く使われている。アニメオタクによって使われ始めた“萌”が中国のネット界を制覇し、一般社会への進出を始めている。「萌」から連想す



ることによって、「好萌」、「萌妹子」、「売萌」などの新しい言葉が作られた。その中で、“売萌”というのはこの「萌」を前面に押し出して人気取りをするということである。

敢えて近似する日本語を挙げるならば「かわいこぶる」だろうか。中国語では萌は「売る」ものらしい。この“売”は「媚を売る」の「売る」と理解すればよいだろう。

それに、“萌”の字をパーツに分類して10月10日と読み、10月10日を“萌节”（萌えの日）とする説は近年中国のマスコミから紹介されたが、今年は10月10日を“売萌日”にしておしゃれをしようと盛り上がっている。

また、「萌」は、2014年、中国の「春節聯歡晚会」（日本の「紅白歌合戦」に相当する）で、よく使われた。最近では、相当人気がある言葉だ。これから、中国へ旅行に行く日本人は「你好」、「谢谢」などの「中国製漢語」の他、「萌」や「人気」や「達人」などの「和製漢語」も楽しく使えるだろう。

これらの新しい和製漢語を、中国人は現在、日本語だと意識しながら使っているが、時間が経つにつれて、だんだん母語としての漢語と認識していくことになるだろう。

「一衣帯水」の隣国である日本と中国は、同じ漢字文化圏に属し、密接な繋がりを持っている。日本人は、自分自身の知恵を集めて作られた「和製漢語」に対し、日本特有の言葉だと意識しながら、大切にしたい。また、漢字を架け橋として、日中両国は、言葉や文化などの面でお互いに影響を与えたり交流したりすることを願っている。

参考文献

王彬彬【現代中国語の中の日本語「外来語」問題】

井上浩芳【和製漢語】

中国図書情報【ネット用語から読み解く中国】

春休みの旅行

ナズル（トルコ）

こんにちは。トルコからの留学生のナズルです。

日本の春休みに日本人は皆、海外旅行などをしているように、トルコ人も夏休みに色々なところに旅行しております。でもそれは、仕事などのせいであまり長くなくて、ホテルで1週間ぐらい泊まって帰るだけです。私の家族は、それと違って、いつも車で回りながら旅行するのが好きで、同じ場所でも1週間も泊まって他の場所も見なければ、旅行の意味がないでしょうと思っています。それで私は家族のこの考え方を持って、日本のこの長い春休みをきっかけにして、日本の綺麗な町を旅行してきました。その旅行からの思い出をどうぞ楽しんで読んでください。

まずは、京都です。和歌山は京都に近いので、今まで3回行きましたが、本当に行ってみたかった金閣寺、伏見稲荷、龍安寺などに今回初めて行きました。3月7日と8日、京都はとても寒かったですが、綺麗なところがいっぱい、どんな天気でも綺麗ですね。その中で、特に嵐山が印象に残りました。竹の森って、空気までも違って、とても気持ちよかったです。

京都から大阪に。大阪は新しい都会であるため、買い物とかで遊ぶところが多いですね。それで、難波、心斎橋、道頓堀を一日回って、その次の日は大阪城とお城の隣にある梅庭を楽しみました。3月10日でしたが、梅の匂いは満足でした。大阪での最後の日、梅田から夜行バスで広島に行く予定だったので、梅田の町を歩いて、梅田スカイビルの空中庭園に上って、綺麗な景色を楽しみました。

広島に到着。朝早くとても寒かった！ホテルに荷物を置いて、宮島に出発しました。宮島の海にある、今まで見た中で一番大きい鳥居がフェリーから見られました。天気はどんどん暖かくなって、海も太陽の光できらきら。綺麗な景色。日本はどうやってこんなに自然を守っていられるのだろう？宮島に着くと他のショック：自由に町を回っている鹿たち！私は初めて鹿にこんなに近づきました。正直言いますと最初は怖かったですが、どんどん慣れてきて、帰る前、触ることも出来ました！島の特徴、厳島神社は、鳥居と同じように海に建てられたようで、とても広くて気持ちよかったです。この旅で、宮島は機会があればぜひもう一度行きたいところです。



広島の日。ホテルは平和記念公園に近かったので、まずは平和記念公園を見に行きました。気持ちを込めて、原子爆弾投下と世界中で戦争で失われた命のため祈りました。戦争はもちろん最悪の状態なのですが、広島と長崎が体験したのは戦争の一部だけだとは言えないですね。原子爆弾の実験、最悪の最悪、何といいますか、気持ち悪いです。言葉が足りなくて胸が痛くなってしまいます。こんなひどい結果になる原子爆弾って何で作らなければならなかったのだろう？人間という存在は何で力のせいで、または力のためそこまで行かなければならないのだろう？私はこのように考えながら、平和記念公園を歩いて原爆ドームまで行きました。そこでお年寄りの夫婦が戦争の思い出を若者たちに話していたのです。聞きたくて近づきました。奥さんが話しながら見せた絵本の中にこう英語で書いていたのです。「forget and forgive」。奥さんは絵本を見せながら言います。「今はね、私たちがこうして生活できるのは、全て平和のおかげなの。私たちが若者に伝えたいのは平和の大切さ。あなたたちにそれを知ってもらいたい。」頭を上げると、聞いているみんなは泣いていました。現在、楽過ぎて、平和の大切さを忘れてしまっている私たちに、思い出させてくださって、感謝の気持ちには限りがありませんね。ありがとうございます。

悲しい話は申し訳ありませんでしたが、時々そんな話もしなければいけませんよね。広島での最後の日、広島城に行って、広島の本通りを歩きました。広島はもともと綺麗な町ですね。七つの川が流れている、11時でも人が賑やかで道を歩いているきらきらな町。その日は朝にかけて日本で初めて地震を体験しましたが、広島はこのような色々なことで私にとっては忘れられない町になったと思います。

広島から鹿児島大学に留学している友達のところへ。この旅で私は初めて新幹線に乗りました。普通は夜行バスでも眠れない私、それが新幹線で眠れるなんて、信じにくいですが、真実です。広島から鹿児島まで3時間ぐらいで到着しました。翌日、鹿児島の有名な火山、桜島を観光しました。ここもいい景色ばかり。桜島から天文館へ。ここも広島の本通りみたいで、賑やかでした。

次の日から3日間の新幹線チケットで九州ツアーを始めました。まずは長崎。もう疲れていて、あまり回ることが出来ませんでした。原爆博物館と平和記念公園を見ることは出来ました。面白いことに、荷の神社鳥居を見るため、最後の電車に間に合わなくて、長崎で1泊しました。そこから近いので、次の日は熊本へ。ここは九州で一番好きになったかも知れませんね。熊本城は今まで見たお城の中で最高でした！忍者の演劇などもあってとても面白かったですね。最後の日は福岡に！福岡は九州の東京だと言われましたが、行ってみると本当に熊本と長崎より都会の感じがしました。日本全国での初善寺を見に行ったらところで偶然トルコ人に出会っていい思い出も出来ました。

皆さん、これは私の2週間の旅の話でした。日本は綺麗なところが多くて、行ってみたい場所はまだまだいっぱいありますが、京都から鹿児島まで行くことができ、本当に良かったと思います。私はこれからも日本での生活を旅しながら楽しんでいきたいですが、皆さんも日本で勉強しながら、日本の観光地も楽しんでくださいね。

ほとんど一年間

プロガノ・ニコラス (アルゼンチン)

皆さん、こんにちは！アルゼンチンから来たニコラスと申します。去年の四月に日本に来ました。アルゼンチンと日本の位置が逆で、その旅行は26時間かかったということは、いつも皆をびっくりさせて面白い！しかし、位置だけじゃなくて、習慣・食べ物なども違って、日本に着いたばかりの時は、アルゼンチンで東洋学を勉強したのに、何もわからなくて大変でした。その上、日本は僕の初めての海外旅行でした！体験と知識は思ったよりずいぶん違いますね。だから、留学の経験は僕が勉強した文化を直接に見る機会になりました。2013年には、色々な国から来た友達に会ったり、日本語を勉強したり、日本の地方に旅行できたり



して、僕にとって特別な一年間になりました。特に日本全国の地域の様々な習慣・名物・有名な場所などを見られたのが面白かったです。そして、日本人はもちろん、色々な国の友達に会ったので、僕のと違う生活と習慣も見て、だんだん自分の先入観をなくして、留学の前より世界についてわかるようになっていっていると思います。「正しい生活」というものがなくて、皆が自分の視点から暮らしているものですね。カルチャーショックがたくさんあるので留学の経験を楽しむために、本当に「広い心」が大切だと思います。

着いた時に、僕が住んでいる和歌山県についてあまりわからなくて、ここはどんなところかなと思って、少し心配しました。日本に来る前に、僕はアルゼンチンの首都「ブエノスアイレス」に住んでいて、実は都会生活に慣れているので、もっと小さな街の生活は初めてでした。でも、和歌山県の文化と風景にだんだん馴染んで、海外であまりわからない日本の一面を知って、新しい経験がたくさんありました！

僕は日本の伝統的な文化に興味があって、和歌山には、熊野古道をはじめ、様々な文化景観や作品やお寺があります。それで、和歌山の住みやすい生活に慣れてきました。大阪や東京に比べて、海外では和歌山県がそんなに人気がないのが残念だと思います。だって日本は「都会」だけじゃないですもん。そして、大阪、京都、神戸、福岡、沖縄などを訪ねて、それぞれの有名な場所を見に行けました。ちなみに、旅行した場所のお土産の小さなコレクションも作っています。

日本に着いた時からほとんど一年間を経て、和歌山大学観光学部の院生になったし、会館から引越したし、もう一回新しい生活が始まるところだと感じます。友達、大学、WIN コンコードにとってもお世話になって、去年より頑張ります！

タジキスタンってどこ

サビナ (タジキスタン)



私は日本に来てから人々に「お国はどこですか？」と聞かれ「タジキスタンです。」と答えてもほとんど誰もが同じリアクションで「タジキスタンってどこなのだろうなあ？」と言って考え込んでしまいました。もちろん、タジキスタンは世界的に大人気の国ではありませんし、あまり知られていません。でも、私は小さくても独特の味わいを持つ国だと思います。

タジキスタンは中央アジアの国で、北西部はウズベキスタンやキルギス、南部はアフガニスタン、東部は中国と国境を接しています。首都はドゥシャンベで、人口は約 820 万人です。

伝統的な文化はシルクロード沿いの国々と似ていて食文化も大体一緒だと思います。例えば、アトラスという民族衣装やブラフという人気名物料理はタジキスタンでもウズベキスタンでも同じです。民族音楽や踊りも非常に近くて、色彩や特徴はなかなか言葉では伝えにくいので、皆さんは、機会があれば、ぜひサマルカンド、ブハラ、ホジャント、パンジャケントなどに行ってみて下さい。

歴史を振り返るとタジクという民族はソグディアナ時代から現われたそうです。現在のタジキスタンのソグド州のパンジャケント地区にはサラズム古代都市がありました。約 5000 年前、サラズムは中央アジアにおける金属製品生産の中心地となり、周辺地域に輸出していました。インド・イラン語派の民族が侵入した紀元前 2000 年頃に都市としての役割を終えたと考えられています。

その後、サラズムは付近にあるトルコ石を産出し、集積を行う鉱山地域として復活したと考えられています。紀元前 1500 年以降に建設されたサラズムは周辺地域の農業、銅生産の中心地として重要な役割を果たしていました。

タジキスタンの歴史的なことについて書きましたが、どこでもそうなのですけれども、一度行ってみないとどんな国なのかを理解することは、なかなか出来ないのかもしれません。私も日本に来る前に色々と日本のことを想像しましたが、でもやはり本当の日本のことや町の雰囲気は日本に来て初めて分かったように感じました。

私の日本語の学習は 2 年前から始まりました。日本や日本文化に興味を持ち、タジキスタン国立言語大学に入学しました。最初に私に日本語を学ぶためのきっかけとなる興味を与えてくれたのはアニメでした。ずっとディズニーやソビエトカートゥーンを見て育ってきた私は、日本のアニメを見て全く新たな印象を受けました。何か考え方が違うなあとその時思いました。学校でも外国語をいくつか知っておいた方がよいなと思っていたし、日本語を習いたいという気持ちで言語大学に入りました。日本語を学んでいる間にどんどん日本の文化に親しみを感じ始めました。

日本に留学することが決まって、とっても嬉しくて楽しみにしていました。日本に来て様々な人々に出会い新しい友達も作って、いろんな所へ旅行して留学生活を楽しんでいます。私にはこのようなチャンスがあって本当によかったと思っています。将来、日本語の能力がもっと向上すれば、日本の企業に就職したいと思っています。

しかし、正直に言えば、私は「何人ですか？」と誰かに聞かれたら、答えを出すのは簡単ではありません。なぜなら、父はタジキスタン人、母の生まれ故郷はウズベキスタンで、私は国際結婚の子供です。私は「彼等は何人かなあ？」とよく考えましたが、日本に来てからは様々な国の人々に会って、自分自身に一つの答えを見つけました。何人でも、どこの国で生まれても、私達は皆同じ地球を共有しています。

私達は世界人です。



夜中のひとり言

ベニ（イントネシア）

忘れん坊です。

眼鏡をどこに置いたかよく忘れた。本をどこに預けたか忘れた。今日何日も忘れてしまった。今は2月某日夜3時37分だ。こうして、昔の写真を見て、「こんな写真あったっけ？いつ撮ったのだろう。」と思い出せなかった。卒業の写真だ。大学同期の友達が並んでいて笑顔がこぼれた写真だが、覚えていない。いったいどうしてこんな大切なことを忘れてしまったのだろう。

物を忘れるのは当たり前だと思いますが、あった出来事も忘れてしまうのは、私、頭のどこがおかしいと思う。たまに友達と思い出話をするとき、「ええ？そんなことあったっけ？」とか「へー、覚えてないんだ、小学校の時の人気のお菓子。」といつも口にして苦笑いするしかなかった。

そもそも、思い出とは何か。映像の世界、たまには写真のように瞬間の切り取った断片だろう。何もかもが確かに記録されたのに、どうして忘れてしまったんだろう。科学的にはもちろん説明があるそうだ。短期間のメモリー、長期間のメモリー。短期間のメモリーは何分かがたったら自動的に消えるが、長期間のメモリーは何年間も何十年間も覚えていられるだろう。そうしたら、なくした記憶が全部短期間のメモリーに保存されたという説明に至ったね。

物覚えが悪い私は、思い出がないということだ。しかし、どうも私は納得いかない。「あなたが覚えられないのは、その出来事を楽しくないと思ったからだろう。」とある日、友だちに言われたことがあった。そうだね、確かに楽しくないなら忘れるのも無理はないでしょう。そういう話をしたら、あった出来事は何もかもが、ただの情報といえるでしょう。何も感じ取れない、動かない情報。何ともない情報なんていつか消えてしまうのもあり得る。むしろ消えてしまったら、脳にとってはいいだろう。

では、思い出、それは多分映像とか、写真とかじゃない「思い」、すなわち「気持ち」だと思う。「心がよみがえる」こと、これこそ「思い出」だろう。料理するときに、何の料理か覚えていないが、ルームメイトと一緒に料理するときの温かな気持ちを思い出す。1月の寒いとき、11月の暖か

い日差しを思い出す。みんなは卒業式のときを思い出すと、どんな感情が呼び起こされただろう。次のステップへ行く不安か、友達との別れの悲しみか、試験から解放される喜びか、いろいろあると思うが、全てがきつといい思い出しかない。

どうしてそんなことが言えるのか。みんなはよく「いい思い出をつくりたい」とか言う。いい思い出の基準は何だろう。いい気持ちを起こさせる記憶が通常「いい思い出」と呼ばれるものでしょう。なら、悪い気持ちを起こさせる記憶が「いい思い出じゃない」と呼ばれるでしょう。友達と旅行して、食べていたとき楽しかったが、仲間外れにされて気分が悪かった。記憶が両立したのに、片方は悪い、いい思い出じゃないと断定されるなんてかわいそうと思う。

みんなはいい思い出をつくるために生きるものなのでしょうか。私は、そうは思えない。いいか悪いか思い出を重ねながら生きるものだと思う。いろんな気持ちを知って、味わってからこそ生きるものです。そもそも私たちにはいいものだけを選ぶすべはない。そうなったらいいものだけにしようがいいじゃないですか。振り返ってみれば、自分はいいい思い出がたくさんあるわけでもない。でも理解したい。理解したら他人に優しい人になれるかな。

自分はばかだから、味わったことだけ表現できる。楽しいことを知って、笑うことができ、笑いがどんなに大事なものであることができる。悲しいことを味わって泣くことがどんなに息苦しいことなのかわかってきた。知った上で、みんなを笑わせたい、泣かせない一人になりたいものだ。しかしながら、私はどうも忘れることにまた悩まされた。さっき言いましたが、楽しくないから忘れる、しかし、楽しいことさえ忘れるというのは病気？(笑)

最後に、みんなに会えてよかったと言いたいです。一年間、和歌山で暮らして、今まで知らなかった気持ちを味わうことができる。それは多分、幸せのものだけではなくて、寂しいことも悲しくて挫折したこともあった。みんなが、みんなとつくってくれた思い出が、私のかげがえのない宝物になった。その全部を大切にしたい。忘れてはいいい思い出なんてないから。みんなに会えて幸せです。

先生方、WIN コンコードの方々、留学生の友、今まで出会った人たちも、大変迷惑かけてしまった、ありがとう、ありがとう……。

新留学生紹介

スタニ（ブルガリア）

皆様、今日は。ブルガリアのスタニと申します。
和歌山大学経済学部 of 学生です。

私の母国ブルガリアで銀行の高校を卒業しました。高校教育と同時に、二年間、土日の経営コースも修了しました。その前にも、お父さんが在モスクワブルガリア大使館で勤めていた時、私はロシアの中学校で経済を勉強していました。これからも、大学で経済学部に入って、ビジネスマネジメント学科で勉強を続けます。その専攻に興味がある理由は今までの学歴の影響だけではなく、他にもいくつかあります。最初の理由として、私は将来、自分の店を開業したいと思います。子供のころからヨーロッパの華やかな喫茶店に憧れて、自分をそのような「カフェチェーン」のオーナーとして想像していました。今でも、ブルガリアのカフェの暖かくて心地よい雰囲気を日本人に紹介して、多くのお客様を喜ばせたいと思っています。

私の興味について話すと、旅行が大好きです。時間さえあれば、日帰りでもいいですが、どこかへ旅行します。もう九州や四国や本州の周りなど行ったことがあります。スポーツも好きで、テニスとバレーボールをしています。

なぜ日本に来た、とよく聞かれます。理由はいろいろありますが、私は日本人のメンタリティと

考え方に興味があります。特に、チームワークと集団の相互関係についてもっと深く知りたいと思います。日本で住んで、日本の文化を味わって、それを母国にも紹介したいと思います。

よろしくお願いします。

カリタミキタ（ベラルーシ）

はじめまして。私はカリタミキタと申します。ベラルーシから参りました。多分、皆さんはベラルーシという国の名前を聞いたら、「ベラルーシってどこの国ですか？」という質問がすぐ出てきます。だから、国の簡単な紹介から始めたいと思います。

ベラルーシは東ヨーロッパの国です。しかし、ベラルーシはとても若い国だと言われています。昔ソ連がバラバラになった時、ベラルーシは独立しました。国の名前も意味を持って、白いロシアという意味になります。

ベラルーシ人が誇りに思うものは国の自然です。ベラルーシは技術のレベルがあまり高くないが、とてもキレイな森と林や池と湖はまだ残っています。現代のヨーロッパの国の中で、ベラルーシが一番緑の多い国であります。だから、外国人はベラルーシに来たら、自分の心に絶対にベラルーシについて良い思い出を残します。ベラルーシ人はとても優しい民族で、回りの国と仲良くしています。そのことについてベラルーシ国歌でも歌っています。



今でも、ベラルーシに古代のお城がたくさん残っていて、あるお城は世界遺産になりました。そのお城はとても素敵な場所です。ところが、近年、ベラルーシで現代的な建築がいっぱい建てられています。例を挙げると、ベラルーシ国立図書館をすぐ思い出します。興味を持ったら、ぜひインターネットで調べてください。その建物はめっちゃ不思議な形をしています！

では、これから自分のこととお話したいと思います。私はロシアの日本に非常に近いウラジオストックという町に生まれました。だから、日本について小さいころから知っていました。特に、日本人が強烈な印象を残しました。だからこそ、何とかして、日本を必ず訪問しなければならない。しかし、両親はベラルーシ人なので、家族はベラルーシに引っ越して戻りました。でも、私はあきらめることを認められませんでした。だから、ベラルーシ国立大学に入った後で、日本の文部科学省の留学生のプログラムについて聞いて、日本の大使館で試験を受け、日本にやっと来ました。これから、日本での生活を楽しみましょう！

張 大鶴（中国）

私は張大鶴と申します。首都師範大学の日本語学科からの二年生です。出身地は北京で今 19 歳です。日本語の勉強を始めて一年、単なる素人から一步一步日本語を使いこなせるようになり、日本人の生活や日本文化について理解を深めています。日本への興味が段々強くなってきました。そして、より多く日本のことを知りたいとの気持ちも強くなりました。百聞は一見しかず、やはり近い視点で日本社会を観察するのは不可欠だと思います。

子供の時、テレビで日本のアニメに出会って、目は深く引き付けられました。日本のアニメは大変おもしろく、日本社会や日本人の生活を反映しています。それ以来、日本が深く好きになってきました。初めて日本に着いてから一番深い印象は、日本の環境がとても良いことです。空気も水もきれいで街にゴミは全然見つけられません。こんな美しい環境に生活するのは非常に嬉しいことです。

今回、和歌山大学に来て、交換留学するのは自分に良いチャンスと経験だと思います。言語環境は言語の学習には非常に大切なので、日本語専攻の学生として交換留学の一年間に日本人と交流をもっとスムーズにしたい、しかも、日本語の能力を向上させたいと思います。それから、日本で視野を広げ、日本の文化や社会についてもっと詳しく理解できるようになり、そして、自分の能力を



向上させるために、より多くの知識を勉強したいと思います。ということで、交換留学の経験は、自分の成長や、日本語能力の向上、かつ、進路を決めることに肝心なものです。

この一年間、私はどんな困難に出会っても、絶対に自分の全力を尽くして諦めません。積極的に輝く未来に一步一步踏み出せると信じています。

王 婷玉（中国）

王婷玉と申します。中国の首都師範大学からの交換留学生です。北京の平谷の出身ですが、平谷は他の市区と違って、山がたくさんありますので、果物も美味しいです。特に桃が一番有名で、たくさんの国に輸出しています。平谷も世界中一番広い「桃の花の海」と呼ばれていますから、毎年四月の中旬になると、大勢の観光客がそこに来てピンクの海で花見をしています。

あの日、日本の上空に飛んできた時、空気が非常に良くて、立派な山や海や島がはっきり見えることに、とても驚きました。そして、ちょうど桜が咲いている頃ですから、和歌山市への途中にたくさんの綺麗な桜の木が並んでいて、まるで私たちに「ようこそ！」と言ってくれたように、嬉しくて幸せと感じました。こうして色々な楽しみを抱いて新しい生活が始まりました。

日本語はもう 1 年半勉強してきましたが、まだまだうまく交流できません。先生方と先輩たち、いろんな国からの友達のおかげで、この 4 日間うまく過ごしました。それに、買い物や手続きの取り扱いを通して、短い間でもこの町に住んでいる人々の親切と優しさをすごく感じてきています。

私は留学生として、交換留学一年間の見るもの聞くものを、中国の人々に伝えて、中日友好に自分の力を入れたいと思っています。また、この一

年間いろんな留学生と協力して、日本人に世界中の人々の笑顔を伝えたいと思っています。

メルヴィン(エルサルバドル)

私の名前はメルヴィンです。エルサルバドルから来ました。エルサルバドルは、中央アメリカで一番小さな国です。昨年10月に来日しました。教員研修生で、電子工学を和歌山大学で1年間勉強します。

少し日本語を話せます。私の趣味は、コンピューターとサッカーです。サッカーをする時は、私を誘ってください。日本で多くの友人を作りたいと思います。皆さんのいい友人になりたいです。よろしくお願いします。

ヒルフィ(マレーシア)

皆さん、はじめまして。私の名前はムハマド ヒルフィ アリフ ビンアミル ハムザーです。「ルフイー」と呼んでください。今年から和歌山大学のシステム工学部で勉強します。

私はパハン州から来ました。パハン州はマレーシアの東海岸にあります。マレーシアの全国は一年中暑いです。けれども、日本の夏ほど暑くありません。

趣味は色々です。本を読むこととか買い物することとかです。でもケーキを作ることが一番大好きです。いつもチョコレートケーキとキャロットケーキを作っています。いつか日本の有名なショートケーキの作り方も習いたいなと思います。

せっかく日本におりますので、色々な所へ旅行に行きたいです。色々な人と交流したいです。

皆さんと語り合い仲良くすれば、日本の生活に早く慣れ、愛も広がるだろうと思っています。

これからお世話になります。どうぞよろしくお願いします。

グエン・キム・スエン(ベトナム)

ベトナムのホーチミン市師範大学日本語学部の学生です。スエンと申します。名前が覚えにくいので、ニックネームがあります。レイです。

私は生まれた時から、ずっと家族と暮らしました。掃除、洗濯、料理・・・両親がそのことを全部してくれました。そのため、今私が遠い国で一人で暮らすのはとても大変です。困る時、自分で解決しなければなりません。そして、家族と友達が心配しないように一生懸命頑張ります。家族の皆様が私より心配しているからです。



私は日本のことが子供のころから大好きです。また、ある映画でアイドルが「Life is hard だけど happy」と言いました。そして私は「Life is hard だけど happy」、そういう生き方で日本で楽しく暮らしたいです。日本語能力を上達することや、文化を体験することや、アイドルのコンサートに行くことなど全部やりたいです。

一年間後、ベトナムに帰る時、私は成長して、今よりいい人になるように頑張ります。そこに成功した私を待っている人たちがいるからです。日本に絶対に負けません！ファイト！

マルク(フランス)

こんにちは、フランスから来ましたマルクです。

フランス人なんですけれどもそうは見えません。というのは、母は台湾、父はラオスの出身だからなのです。

2月の末に来ましたが、実は日本に来たのは初めてです。日本の漫画や文化が好きなので日本を選びました。それから、日本以外のアジアの各国をたくさん旅行で訪れていますので、今回のこうした機会をととても嬉しく思っています。

現在、フランスのトロワ工科大学の4年生、専門はシステムネットワークと情報通信工学です。和歌山大学では6カ月間、コンピューターデザインでインターンシップを行う予定です。カナダから戻ってきたばかりですので、ここに来て良いお天気だったら良いのですが。

日本語は話せませんが、皆さん本当に親切で心温まることばかり、特に問題はありません。またWIN コンコードのおかげで他の留学生とも交流ができ素晴らしいことだと思います。

短い期間ですがどうぞよろしくお願いします。

ポンピバック・ダーラー（ラオス）

この春より和歌山大学大学院システム工学研究科に所属するポンピバックダーラーと申します。ラオスから来ました。日本に来てから「なぜ留学先は日本を選んだの？」とよく聞かれています。日本は私にとってとても憧れの国でした。それは子供の時から、交換留学生として日本へ行ったことがある友達の影響であり、様々な日本の文化や伝統などについて聞いていたので、興味を持ち、私もいつか日本に行くことを強く希望していました。また、先生方の話やテレビ番組などを通じて、日本は先進国の一つであり、技術の面では進んでいることを知りました。私は先端技術を学びたかったことに加え、日本に留学のための試験によって機会を与えられたので、日本を選びました。

日本に留学できたことは、子供の時からの夢を叶えただけではなく、本当にやりたいことに向かって前進している感じがします。留学の中で生じたいろんな変化や問題などはすべて自分の責任です。視野が広がり、考え方が広がったと実感しています。さらに、たくさんの人に出会え、数多くのことを体験できます。それらのことは、自分が成長しながら人生が変わるほどの経験をするのも大いにあると思います。

これから、知りたかった和歌山のことを体験していきたいと思います。WIN コンコードの皆様、よろしくお願いいたします。

グエン・ニュー・イー（ベトナム）

イーと申します。ベトナムから来ました。ホーチミン市師範大学の日本語学部 of 四年生です。今年四月から和歌山大学の留学生になりました。

3年間ぐらい日本語を勉強していましたが、まだ下手ですから、留学することになりました。日本在留の間に、日本語能力を上げたり、色々な友

達を作ったり、日本文化を体験したりしたいです。

家族は8人です。多いでしょうか？両親と兄が2人、姉が3人います。甥と姪もいます。おばさんになりました。大家族ですから、テトのとき、皆が集まってとても楽しいです。

私の趣味はハンドメイドをしたり、カラオケに行ったり、特に本を読むことです。最近、日本の小説や漫画も読みました。「旅猫レポート」、「海よりも深く」などです。とてもおもしろかったです。ベトナム語に訳するつもりです。

将来、日本会社の営業部で働きたいと思います。しかし、日本の会社は厳しいといわれているから、マナーを勉強したいです。夢はブックカフェをすることです。ベトナムの子供と若者は今本をあまり読みません。ゲームとかSNSをよくします。

私はその習慣を変えたいです。本を読むことは知識が多くなります。発展する国は人材が色々必要です。では、以上です。

2013 年度 活動経過

-
- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 4 月 7 日 | 新入生歓迎お花見 |
| 4 月 21 日 | 日本舞踊鑑賞会 |
| 5 月 16 日 | WIN コンコードニューズレター 23 号発行 |
| 5 月 19 日 | 第 5 回 NPO 法人 WIN コンコード
総会・交流会 |
| 6 月 30 日 | 紀州ぶんだら踊り第 1 回練習 |
| 7 月 21 日 | 紀州ぶんだら踊り第 2 回練習 |
| 8 月 3 日 | 紀州ぶんだら踊り・パーティー |
| 9 月 8 日 | サマーデー・キャンプ（田の浦） |
| 9 月 27 日 | 榊明治製菓見学 |
| 10 月 6 日 | 第 2 2 回故郷を語る集い |
| 10 月 13 日 | 万葉薪能鑑賞 |
| 11 月 24 日 | 大学祭 |
| 12 月 23 日 | 八朔狩り・鍋パーティー |
| 1 月 14 日 | ウィーンフィルハーモニーコンサート |
| 2 月 26 日 | 榊花王 見学
和歌山県立近代美術館・博物館 見学 |
| 3 月 9 日 | 卒業生を送る会 |
| 3 月 31 日 | 歌舞伎ワークショップ |
- 年 間
- ・生活関連の情報提供や支援
 - ・生活用品の貸与
 - ・就職活動に向けた勉強会
 - ・留学生活動（卒業アルバムの作成、大学祭の模擬店）の協力
 - ・ホストファミリーとしての支援



会社見学と京都観光

李 会芳（中国）

「meiji 大阪工場へようこそ」

その日私はわくわくしながら、meiji 大阪工場向かいました。しばらくすると、目の前に立派な明治工場の姿が現れました。ああ…やっと憧れた日本の食品企業を見学できます。すぐ、私達は明治製菓の歴史ルームへ案内されました。そこで、案内員はお茶とチョコレートを用意し、歓迎してくれました。私達は癒されながらチョコレートの歴史と meiji の歴史について学びました。それだけなら、学校の図書館でも調べられ、わざわざここまで来なくても済むことです。もちろんそれだけではなく、私が meiji の一番魅力を感じている部分は、機械化された近代的な工場を見学できたことです。

生産ラインの見学前に、私は初めてカカオというものを見て、今まで食べてきたチョコレートの原材料について分かりました。案内員は片手にカカオを持ち、片手で半分に切ったカカオを取り、中の豆を見せました。「皆さんの前にカカオの豆を置いています。それはカカオの中の繊維（とろとろのもの何というかわからないです。）に包まれ手いる豆です。それが選別、分離、焙煎などの工程によって、チョコレートになります。」案内員はそう語りました。その話と豆のいい香りに包まれて、つい幸福感が心から湧いてきました。

私達留学生はまるでカカオの豆のように守られているのではないのでしょうか。大学をはじめ、WIN コンコードや日本語のボラティア先生また地域の住民は、ずっと私達の面倒を見てくれている上に、私達により充実できる留学生活を送らせるために、グループディスカッションや工場見学などの活動を主催し、参加させてくれました。それによって、私達は異国の知識を勉強できると同時に心も豊かになりました。このように私達は異国の日本での経験とさまざまな勉強を通して、カカオ豆のように世界に広がり、いろんな分野で役に立つでしょう。

そして、meiji の衛生管理の厳しさも目に付きました。それは生産ラインの作業者の服装と作業前の準備から想像できます。作業者は二重の制服を着た上に、複数の手洗いと空気シャワーを浴びます。日本の生産ラインでは、全面的に自動化されています。



しかし、少しのミスも許されないため、長い生産ラインの作業を作業者がじっと確認しています。私はその態度にとっても感心しました。周りの留学生も同じように感心しているようでした。でも、いくら美味しい晚餐でも終わる時間があります。なごりつきませんが、私達の旅はまだ続きます。

美味しいランチの後、私達は清水寺へ行きました。そこで、なぜ昔の人は決意して行動するとき、清水寺の舞台から飛び降りるという話をするのか、その場に立って分かりました。たぶん昔の人は清水寺の高さに驚いて、そこから飛び降りたらきっと死ぬに違いない、それほどの覚悟をもって事を成すと言ったのでしょう。でも、その時の私は、少し違う意見でした。死ぬことは難しくないと思います。そんなに壮観で、きれいなところで亡くなることは、幸せかもしれないです。もちろんこれは冗談ですが、清水寺の綺麗さは、それ程素晴らしいものでした。

次に、夕日を浴びている金閣寺はキラキラで皆の目を奪いました。ずっと声を抑えていた皆は、急に爆発し歓声をあげました。でも、私にとって最も魅力的なのは表面的なものではなく、その美しさの中にある日本人の精神的な部分でした。金閣寺はただの権力の象徴ではなく、日本人のおもてなしをする所でもあったそうです。昔、そこはお客様を招待するとき使われていました。そのため、非常に綺麗に作られていたそうです。日本人の持つ相手を重んじる考え方に感銘しました。

最後にみんな揃って平安神宮で記念写真を撮り、その後ノロノロのバスで帰路に着きました。

旅には終わりがありますが、その思い出はずっと消えないと思います。また、meiji のチョコレートや生産ラインで見たきのこ山を食べる時、私はきっと今度の旅を思い出すでしょう。

花王の工場見学

ホアイ・ニョ（ベトナム）

ミン・ツェ（ベトナム）

WIN コンコードから 2014 年 2 月 26 日に花王工場の見学というお誘いを頂きました。花王のスキンケア製品はベトナムだけではなく、いろいろな国々でも人気がありますので、実際の生産過程を詳しく知りたくて、見学に行くことにしました。

朝 9 時半ごろ、留学生の 17 名は WIN コンコードの皆さんと一緒にバスに乗って、和歌山市湊にある花王に着きました。工場に入ると思ったより大きな規模に驚きました。以前にはそのような広い敷地面積のある工場を見たことがありませんでした。ガイドさんによると、これは日本の一番広い花王工場だということにもびっくりしました。和歌山市に住んでいる私は、かなり誇れるなと思い、ガイドさんが丁寧に説明することをよく聞こうと思いました。工場の中に入れば入るほど花王の生産過程が素晴らしいと感じました。なぜかという、生産するため、人間の力の代わりにロボットが担っていて、インプットからアウトプットまで極めて正確に運行されています。インプットというなら、原材料がフィリピンやインドネシアなどのヤシで、その品質が良く、自然材料のあるそれら国々から特選され、従ってアウトプットの製品も優れた品質をもっていることではないでしょうか。

それに、毎日沢山の製品箱を開けたり整頓したりする販売員のスタッフたちが楽になるため、花王は特別な箱を開発していて、留学生の一人がその箱を開ける体験をしました。その様子を見て、素晴らしいと皆目を皿にしました。なぜなら、花王は販売する人たちのことまで考えて、製品を作っているからです。

また、花王は製品を作るだけでなく、環境を守ることにいろいろな努力が見られます。「花王エコラボミュージアム」を訪ねると、それが分かります。ベトナム人の私にとって、製品を生産することにしか集中しないベトナム企業と比べて全然違うと不思議に思います。なぜ環境を保護するのに多くの費用をかけるのかというと、現代、地球環境が段々悪くなって、植物さえも存在できないというドキュメンタリーを見せて頂き、環境を考えないことをするばかりの企業はストップしないといけないと感じました。また、地球に資源を返さずに取ってばかりいることを続ければ、それ

がなくなってしまう日が早く来るに違いありません。花王は前もってそれに気づいているようですから、環境を守るための研究施設を作りました。施設の中では一つの面白い実験として排水処理を紹介されました。

工場で水はどのように使われているのかをご存知でしょうか。私も詳しく知りませんが、やはり沢山の水が使われていると思います。毎日毎日使っている河川の水は少なくなってしまうのでしょうか。実は、より少ない水やエネルギーや原材料から製品を作る工夫や資源の再利用、廃棄物の削減など生産におけるエコへの取り組みを最新技術を交えて紹介して頂き、川から取られた水は綺麗にされた後、川にだいたい最初と同じ状態にして返していることが分かりました。そのような過程は実際には複雑ですが、タブレットでそれが最も分かりやすい形にして見せてもらいました。留学生の私たちは非常に素敵なことだと思いました。環境を守る義務は個人だけのことではなく、一つの国でもなく、世界中の一人ひとりが小さいことからはじめ、一緒に生きている地球を守ってほしいと花王が考えているのではないのでしょうか。

本日の見学できたことは WIN コンコードのおかげでいろいろな国から来た私たちは日本の一つの工場を見学して、エコについてのことも勉強し、心に残りました。ベトナム人の私にとって、ベトナムにおける企業は花王と同じような方法に真似をすれば良いのではと考えております。機会があれば、ぜひベトナム人の後輩にもこのような日本の素敵なことの一つを教えてあげたいと思います。日本もベトナムでの経済開発から発生した空気、水源、土地などの汚染に対策を出すことを応援すると期待しています。

もう一度花王工場のスタッフと WIN コンコードの皆様にご挨拶申し上げます。







W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>